



# ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2022 応募プロジェクト一覧

✿ベストプロ2021 最優秀賞✿

十勝シーニックバイウェイ・トカプチ雄大空間

～知らなきや損！2人目が無料～ ふたりぼっちパスポート事業



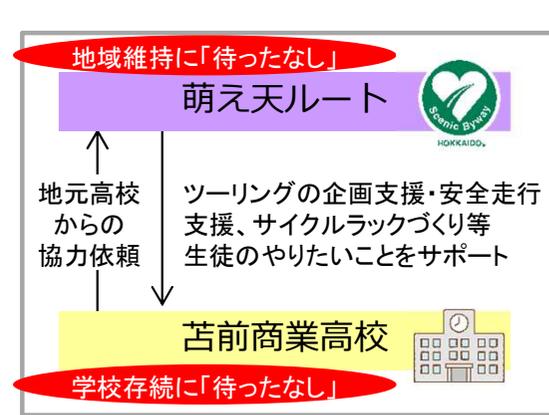
シーニックバイウェイ北海道推進協議会



①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
  - ・道立苫前商業高等学校は、平成28年度から**入学者数の減少による廃校の危機に瀕している**
  - ・**学校存続および地域活力の維持に向け、苫前町を学びPRする取組を教員・生徒一丸で実施**
  - ・アウトドア観光が留萌管内各所で注目される中、令和元年度より**萌え天ルートも「サイクリスト応援・プロジェクト」で観光地域づくり**
  - ・地元高校生が学校や地域を広くPRするため「自転車ツーリング事業」を企画。地元を良く知る萌え天と学校がタッグを組み、**学校存続による地域活力の維持と観光地域づくりを達成すべく、「自転車」をキーワードとする協働のまちづくりを展開**
- 活動内容：自転車ツーリング事業の企画 (地域資源のレクチャー) ・走行支援 (伴走やエイド)
- 活動期間：令和3年度～※継続実施中

②活動の体制



学校存続による地域活力の維持と観光地域づくり

自転車をキーワードとする協働のまちづくり

- ・自転車ツーリング事業の企画段階ではコース選定や立ち寄り先を紹介
- ・事業当日は2泊3日寝食を共にしながら、安全走行のための伴走やエイドの設営などをフルサポート (令和3年及び令和4年)
- ・苫前商業高校と協働でサイクルラックを製作
- ・高校生がオススメする町内施設にサイクルラックを協働で設置

北緯45度モニュメント (幌延町)

しよさんべつ天文台 (初山別村)

令和4年7月26日～28日 苫商～天塩～遠別～苫商 (約215km)

オロロンライン (小平町)

令和3年7月26日～28日 苫商～深川～幌加内～苫商 (約220km)

霧立峠 (苫前町)

●宿泊地

過去2カ年のツーリング事業の行程

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

●**将来の留萌の応援団をつくる投資とシーニックバイウェイの次世代育成**  
 お互いが**全力で向き合うことで大人世代のモチベーション向上と、将来世代の育成という理念**の下、取組を実施。



留萌への愛着

将来の留萌応援団の形成

例) 観光客として「里帰り」や移住・定住

例) SBWを担う次世代

- 【活動による効果】
- 苫商のPRに寄与 (出願数が3倍超)
  - 高校生と一緒に活動することで、ルートメンバーのモチベーションの高まりや地域団体との交流も生まれ**ルートが活性化**。
  - 地域の将来ビジョンづくりを後押し
- 出願数が前年比の3倍となり、高校再編危機を回避 (R4入学者)

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●「千歳ウェルカム花ロード」は、北海道の空の玄関口を子どもたちと一緒に花で飾り、国内外から訪れる方々へ「おもてなしの心」をあらわそうと、平成15年に(社)千歳青年会議所の発案で始まった活動です。活動開始から20年、今年はお隣の恵庭市で開催された全国都市緑化フェア(ガーデンフェスタ2022)のメイン会場とサンフィニティ桃色吐息の花苗をあわせ、エリア一体でのおもてなしの沿道を演出。協賛金やクラウドファンディングなど多くの皆様にご協力をいただき新千歳空港周辺の道を彩りました。

- 活動内容：①土起こし：5月17日、  
 ②花植え：IC:5月24日、道道:5月10日～24日、国道ABCエリア:5月24日 ※花ロード特別授業(緑小学校、千歳小学校)  
 ③除草：6月28日、7月12日、26日、9月6日  
 ④花苗の撤去：10月18日

【参加人数】①83名 ②554名 ③200名 ④52名

- 活動期間：平成14年度(SBW試行期間)～令和4年度(20年目)

②活動の体制

千歳ウェルカム花ロードver.20  
 主催：千歳ウェルカム花ロード実行委員会  
 ((一社)千歳青年会議所・北海道開発局札幌開発建設部  
 ・北海道空知総合振興局札幌建設管理部・千歳市  
 ・東日本高速道路(株))



③PRポイント

【総意工夫した点や苦勞した点】

- ・ガーデンフェスタ2022のスポット会場に登録。エリアメンバーが活動しているメイン会場と花苗をあわせ、おもてなしの沿道を演出。
- ・千歳市内の企業をはじめ570,000円協賛金を応援いただいた他、平成28年度よりクラウドファンディングの挑戦を継続。401,000円のご協力をいただいた。

【活動による効果】

- ・小学校、市民ボランティア、花植え団体、企業、行政(千歳市、北海道、自衛隊、札幌開建)が、世代や組織の枠を超えた交流が生まれた他、多様な機関の連携・協力により活動を継続している。

\*クラウドファンディングはプロジェクトの実現など「ある目的」のために、インターネットを通じてプロジェクトに共感した不特定多数の人から資金の出資や協力を募ることをいいます。



▲千歳ウェルカム花ロード ver.20ポスター

恵庭・千歳のエリア連携によりお揃いのお花でおもてなし!



▲ガーデンフェスタ2022メイン会場(恵庭市)

Step1 花ロード特別事業(千歳小学校・緑小学校)



▲千歳青年会議所 おもてなしのお話 ▲北海道・札幌開発建設部による道のお話 ▲フラワーマスター 花植えの方法

Step2 土起こし・植栽



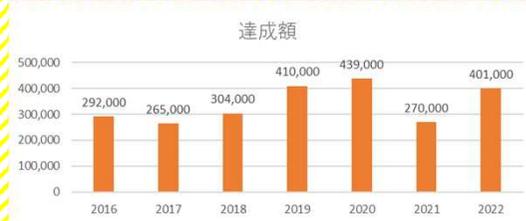
▲北海道日本ハムファイターズB★Bも参加

Step3 除草・花苗撤去



▲維持会・千歳市・札幌開発建設部と連携 ▲ANA新千歳空港(株)も参加

クラウドファンディングの変遷



▲平成28年かからチャレンジを開始、毎年チャレンジを継続し、千歳の地域資源のPRを行うとともに、多くのおみなさんに、応援いただいております。

Instagramはじめました!



WELCOMEHANAROAD



様式 (★指定・候補ルート共通)

活動名称

札幌市南区の冬を美しい光で彩る「冬の雪あかり」の取り組み

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

①活動概要 (目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の経緯：
  - ・札幌シーニックバイウェイの候補ルートを立ち上げた際に、札幌市南区内で開催されていた**冬季イベントの情報交換を目的とした「雪あかり交流会」** (2008年 (平成20年) 12月) をきっかけにルート連携活動として始まった。ルートのほぼ全域で展開されており、参加団体も非常に多く、活動主体によって取組み状況が異なっているのが特徴である。
- 活動の目的・目標：
  - ・石山地区の「石山スノーファンタジー」は、町内会連合会と商店街が中心となり地域住民と協働で、**街と商店街の活性化**、並びに、**地域コミュニティ意識の醸成を図る**ことを目的に行われている。
  - ・芸術の森地区の「雪あかりの祭典」は、町内会、美術館、大学などが連携し世代を超えて活動しており、**相互の協力関係の構築**を目指している。
  - ・「定山溪地区」の定山溪温泉雪灯路は、定山溪観光協会が各宿泊施設が個別に行っていたキャンドル点灯の活動を1箇所に集め、**冬の温泉街におけるイベントとすることを目的に始まった**。雪と神社と温泉という景観を形成することで、**新たな賑わい創出と観光客の誘致促進**を目指している。
- 活動内容：設置・点灯(毎年12月上旬～3月下旬)
- 活動期間：平成20年度～令和4年度 **※継続展開中**
- 実施場所：札幌市南区

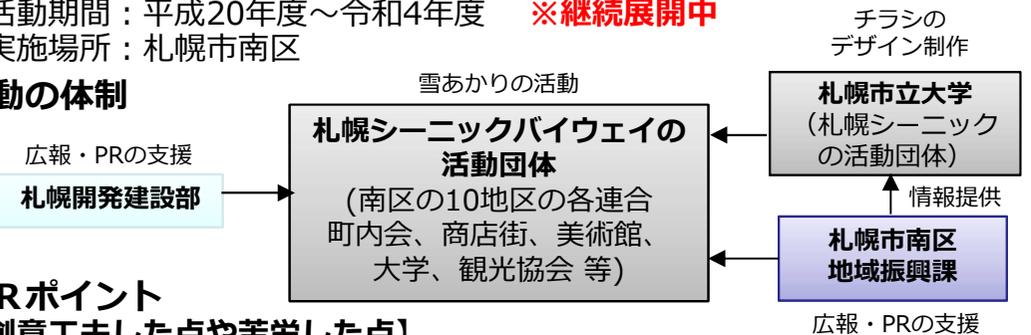
<冬の雪あかり>

札幌市南区の各地区 (10地区) において、地域の様々な方々の取り組みにより、スノーキャンドルやアイスキャンドル、イルミネーションなどを点灯するほか、雪だるまや雪像の設置などを行い、幻想的なキャンドルの景色を楽しむ冬のイベントである。



▲雪あかりチラシは、毎年、札幌市立大学の学生によってデザイン制作されている

②活動の体制



③PRポイント

【創意工夫した点や苦労した点】

・元々、地域ごとに、参加団体や取組状況が異なっていたため、広報・PRを個別で行っていたが、**札幌シーニックバイウェイ全体の取組として、南区地域振興課がイベント情報を取りまとめ、札幌市立大学がチラシをデザイン制作**することで、イベントを一斉に広報・PRできるようになった。

【活動による効果】

・札幌シーニックバイウェイの活動団体の多様な地域住民や企業、団体が参加することにより、**美しい景観づくり**に加え、**住民や関係団体の交流、相互の協力関係の構築、新たな賑わい創出**をもらたしている。また、活動を一斉に広報・PRすることにより、**観光客の誘致と促進**に繋がっている。



活動名称

きた北海道  
エコ・モビリティの推進

地域のブランド化に向けた取り組み

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称

天塩川シーニックバイウェイ×宗谷シーニックバイウェイ



①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●目的・目標／体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手にとり、地域にとってプラスとして、地域資源に触れ・遊び、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』を広域で連携・推進  
⇒その一つの形として、自転車を軸としたイベントを“地域ブランド”として定着させ、地域への経済効果・周遊性向上へ繋げる

●活動内容／**地域ブランドの確立を目指す  
広域サイクリングイベント  
TEPPEN-RIDE  
5th Anniversary**

自然豊かな道北の魅力伝える、旭川～稚内を結ぶ広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」の5回目の記念開催。企画・当日の運営は両SBWルートが主体で行い、募集チラシの作成やサイト等も活用して広報を行った。  
新たな取り組みとして、北海道サイクリング協会主催のえりも岬～旭川のサイクリングイベント「とんがりライド」と開催時期等を調整し、南から北までを繋いだ『北海道縦断ライド』も行い、3名が完走した。両イベントとも同じ旅行会社によるツアー商品として販売したため、縦断する参加者の引継ぎや細やかな連絡対応等ができ、参加者から好評であった。

**襟裳岬から繋げた初の試み  
北海道縦断ライド**



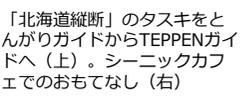
- 活動期間／7月～ (広報物作成・PR)  
9月22日～24日 (イベント実施)  
12月～ (次年度の計画・準備)
- 活動範囲／きた北海道エリア  
(天塩川SBW、宗谷SBW、近隣市町村)



最終日まで事故無く無事にと願い、2日の最後に神社で安全祈願 (右)



観光スポット立ち寄りやご当地の食事だけでなく、自転車屋さんによるメカニックサポートが帯同していることもTEPPENの魅力のひとつ (上)。宗谷岬へゴールした後は、ホテルまで宗谷アクティブバスで愛車とともに移動 (右)



「北海道縦断」のタスキをとんがりガイドからTEPPENガイドへ (上)。シーニックカフェでのおもてなし (右)



②活動の体制



実施主体 **きた北海道エコ・モビリティ**  
**天塩川シーニックバイウェイ**【事務局】  
**宗谷シーニックバイウェイ**

【協力・連携】 常に密に情報共有  
きた北海道サイクルツーリズム連携協議会／(一社)シーニックバイウェイ支援センター／北海道エコ・モビリティ研究会／北海道開発局 旭川開発建設部・稚内開発建設部／その他(地域活動団体、自治体、企業等)

③PRポイント

- 【総意工夫した点】
  - ・北海道サイクリング協会と連携し、双方の募集チラシに情報を掲載し、参加者層の拡大を狙った。
  - ・自転車店舗でも配布、記者投げ込みも行い、多くの人へ届くような広報手法を検討した。
- 【活動による効果(成果)】
  - ・初めて参加される方が多く、道内各地の他、東京や大阪からの参加者もいた。
  - ・北海道新聞、毎日新聞、北都新聞等で実施内容が記事になり、活動のPRに繋がった。
- 【今後の展開】
  - ナショナルサイクルルートを目指し、旭川市や比布町、サイクリング協会等を含む「きた北海道サイクルツーリズム連携協議会」主催によるイベントとし、両ルートは協力・連携となる体制づくり。
  - 周辺地域の自治体や企業等へ活動への賛同を働きかけ、エリア全体でサイクリング環境・受け入れ態勢を強化。
  - サイクリングとその他のアクティビティを組合せて楽しめる「R3ツアー」の旅も紹介し、TEPPENに参加している家族や友達も一緒に宗谷岬まで楽しめる企画を検討。